

# 味わい凝縮「まんじ札」

弘大資料館で企画展、附属中生制作の120点

## 街の歴史や風景ずらり

弘前大学資料館で10日、第32回企画展「ひろふ弘前まんじ札展」が始まった。同大教育学部附属中学校の3年生が2年次に制作した、弘前市など自分の暮らす街の歴史や風景、魅力をイメージし、多版多色刷りで作った「まんじ札」約120点が並び、中学生ならではの目線で切り取った弘前の「味わい」が凝縮された展示となっている。6月28日まで。入場無料。(西尾瑛)



生徒たちの個性が光るまんじ札が並ぶ

### 弘前

もともと、まんじ札は同市の子どもたちに夏休み期間中、街を巡ってもらおうと弘前の店や施設で無料配布されていたもの。同校では、「多版多色木版で弘前まんじ札をつくろう」と題



会場にはまんじ札をアレンジして作った紙の袋も並び

した美術の授業を展開。弘前をイメージしたデザインを浮世絵の技術でもある多版多色木版で作って展示会を開き、従来のまんじ札と同様、来場者に配る取り組みを行ってきた。

授業には版画家の宇田川新聞さんの木版画の解説書も参考に取り入れており、今年1月には宇田川さんが来校して生徒たちに摺りを実演。生徒たちはかなり刺激を受けた様子で、その後何回も摺りを重ね、ずれも味わいとして取り入れるなどしながら納得のいく作品に仕上げた。会場には、色合いも多彩

に、「ちりんちりんアイス」や「金魚ねぶた」「大きいも」などのほか、リングと岩木山などの風景がずらり。長年同校で指導を行ってきた時苗靖子教諭(現津軽中教諭)は「中学生しか思いつかないようなアイデアや色使いを見てほしい」としている。  
時間は午前10時～午後4時。日曜・祝日休館。

※この記事は陸奥新報社の提供です。

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

[問い合わせ先] 弘前大学資料館

jm3432@hirosaki-u.ac.jp